Xiang(Robert) Li(編著)
『Chinese Outbound Tourism 2.0』

Apple Academic Press, 2016 年、ｘｘｘⅶ＋380 頁、154.11 米ドル

（一）本書の目的と編著者

本書は中国人アウトバウンド観光が 1994 年の 610 万人から 2013 年の 9,820 万人へと急増(約 16 倍）し、目下新たな潮流（第２の波）を迎えていることについて総合的な観点から理解することを目的に編まれたものである。編者の Xiang(Robert) Li は、テンプル大学の観光とホスピタリティ・マネジメント学部の教授兼 Washburn シニアリサーチフェローであり、執筆者は 44 人から成る。

（二）本書の構成

本書は以下に示すように４部に区分された 23 編の論文（括弧内は執筆者）から構成されている。ここで第１部は本書への導入部として、中国人アウトバンド観光の歴史的変遷、中国の観光政策の評価、中国人アウトバウンド観光研究のレビューがなされている。第２部は大陸中国からの最近のアウトバウンド観光について主要訪問先である香港、マカオ、台湾、アジア、オーストラリア、ヨーロッパ、アメリカのそれぞれについて観察がなされている。第３部は中国人アウトバンド観光における特徴的事象として、サービスへの期待、“場”の体験、ギャンブル選考、ショッピング活動、贅沢消費、ソーシャル・メディアの利用、旅行ストーリーのオンライン利用、地域分散型旅行、旅行への意思、学生の自律的旅行をとりあげ、考察・展望がなされている。第４部は中国人アウトバンド観光の“第２の波”をさらに考察していくために、メソドロジー、批判的探究、市場トレンドと将来予測についての考察がなされている。

第１部：概観

第１章　中国のアウトバンド観光：歴史、今日の発展、外観（Wolfgang Georg Arlt）

第２章　中国のアウトバウンド観光政策に関する評価（Guangrui Zhang）

第３章　中国のアウトバウンド観光研究への評論：現在と将来方向（Yin Wang and Xin (Cathy) Jin）

第２部：地域的観察

第４章　大陸中国の香港へのアウトバウンド観光：最近の進展（Tony S. Tse）

第５章　大陸中国のマカオへのアウトバウンド観光：最近の進展（Xiangping Li）

第６章　大陸中国の台湾へのアウトバウンド観光：最近の進展（Li Shen, Chia-Kuen Cheng, Yann-Jou Lin, and Hsi-Lin Liu）

第７章　大陸中国のアジアへのアウトバウンド観光：最近の進展（Hanqin Qiu and Lei Fang）

第８章　大陸中国のオーストラリアへのアウトバウンド観光：最近の進展（Iris Mao and Songshan (Sam) Huang）
第９章　大陸中国のヨーロッパへのアウトバウンド観光：最近の進展（Berenice Pendzialek）
第 10 章 大陸中国のアメリカへのアウトバウンド観光：最近の進展（Hongbo Liu, Xiang (Robert) Li, and Scott C. Johnson）
第３部：事例および展望
第 11 章 中国人アウトバウンド観光客のサービスへの期待(Kevin Kam Fung So, Wei Liu,Ying Wan, and Beverly A. Sparks)
第 12 章 フィレンツェにおける中国人観光客の現場体験：オーケストラ・モデルの応用(Philip L. Pearce and Mao-Ying Wu)
第 13 章 中国人のギャンブル選考とカジノ・ツーリズムの出現(Ipkin Anthony Wong)
第 14 章 中国人アウトバウンド観光客のショッピング活動(Fang Meng and Pei Zhang)
第 15 章 中国人アウトバウンド観光客の贅沢消費(Wan Yang)
第 16 章 中国人アウトバウンド観光客のソーシャル・メディアの利用：プラットフォームと行動(Han Shen and Xing Liu)
第 17 章 あなたのストーリーのオンライン、私の次の旅行の発見方法(Xing Yang, Dan Wang, and Brian King)
第 18 章 道なきトラベル:オーストラリアにおける中国人観光客の地域分散(Byron W. Keating and Margaret Deery)
第 19 章 日本への旅行意志に関する経験的研究：尖閣諸島政治危機後の大陸中国市民に関する事例研究(Yingzhi Guo and Yun Chen)
第 20 章 中国のアウトバウンド学生観光客：自由旅行への好みの発展(Brian King and Sarah Gardiner)
第４部：影響および予測
第 21 章 中国のアウトバウンド観光 2.0 の時代における研究：メソドロジーに関する新たなパースペクティブ(Stanley Chan)
第 22 章 中国人アウトバウンド観光：批判的探究(Rich Harrill, Xiang(Robert) Li, and Honggen Xiao)
第 23 章 中国人アウトバウンド観光の市場トレンドと予測(Li Jason Chen, Gang Li, Lingyun Zhang, and Ruijuan Hu)
索引
＊なお、（　）内は各章の執筆者を示している。

（三）本書における注目点

本書における注目点としては以下をあげることができよう。

第一は、中国人アウトバンド観光の変遷を“第１の波(1.0)”と“第２の波(2.0)”に区別し、現在は前者の波が過ぎ、後者の波にあると指摘している点である（第１章収録。執筆者はアールト）。ここで“第１の波(1.0)”とは中国人アウトバウンド観光が「出境目的国・地域指定（Approved Destination Status :ADS）」によって急増したことにより発生した波であり、海外旅行の経験が

浅く、ホテルなどのサービス水準に関心があるのではなく、高価なブランド品やおみやげなどモノの消費に関心がみられるのが特徴である。こうした特徴は昔の日本人アウトバウント観光客に類似していると指摘されている。すなわち、団体グループで外国語能力が低く、地方の人々との関わりが少なく、スナップ写真を撮りまくるといった点は非常に似ており、これに中国人アウトバンド観光客は中華料理を好むという特徴が加わるという。これに対して近年シフトがみられる“第２の波(2.0)”とは、“第１の波”において風刺された行動ではない観光客、すなわち、高い教育水準と所得水準を有し、国際的な旅行経験を積みつつある中間層による新たな波であるという。彼らは多くが自分で旅行を企画するなど多様な旅行形態を選択している。最近の中国人アウトバウンド観光客の半数以上は 1980 年代以後の生まれでもまた“第２の波(2.0)”と関連があるかもしれないという。第二の注目点は、「“現場”の体験に関するオーケストラ・モデル」を用いて観光客の現場での体験を観光心理学的に分析した内容が含まれている点である（第 12 章収録）。ここでピアスとウーは、フィレンツェのドーム（大聖堂）エリアにおける中国人アウトバウンド観光客の全体験は「感知の投入」「感情的反応」「関係性」「認知メカニズム」「アクティビティと行動」といった心理項目（オーケストラ・モデル）から把握できるとして、アンケート調査を用いてそれぞれの心理項目を分析し、中国人アウトバウンドの観光心理を探究している。第三の注目点は、中国人アウトバウンド観光客による贅沢品の消費をヴェブレンの理論を基にした「Luxury 4Ps フレームワーク」を用いて考察している点である（第 15 章収録）。ここでヤンは、Han, Y. J.; Nunes, J. C..; Dreze. X. Signaling status with luxury goods, *Journal of Marketing*, 2010, 74, 15-30. において示された「Patricians（貴族）」「Parvenus（成金）」「Proletarians（無産階級）」「Poseurs（気取り屋）」という４つの類型から構成されるフレームワーク（Luxury 4Ps フレームワーク）を用いて最近の中国人インバウンド観光客を贅沢品の消費行動の観点から類型的視点で考察している。

（四）本書への評価

本書は近年の中国人アウトバウンド観光客を“第２の波”として認識できる観点からその動きを上記「本書の構成」で示した総合的な観察および考察によってとりまとめたものである。本書で示された内容は、現在において日本の各地方に多数訪れている中国人アウトバウンド観光客を適切に理解し対応することに関して有効な示唆を与えるばかりでなく、今後いかなる取り組みが地域観光において必要であるかに関しても有効な情報を提供している。本書から得られる知見を参考としてそれぞれの地域は観光目的地マネジメントのイノベーションに創意工夫を加えていくべきであろう。本書においても予測されているように今後も世界の各地において中国人アウトバウンド観光客の増加が見込まれている。“第２の波”から“第３の波”へと新たなシフトが生じるから予見しえないものの、観光目的地の立場からみて中国人アウトバウンド観光客の動向には目が離せない。その潮流を的確に認識するためには本書の内容理解は有用であり、観光研究者はもとより、観光行政および観光ビジネスなど観光の動きに関心のあるすべての方々に一読をお薦めする。

（伊藤昭男・北海商科大学）

(2017年6月19日受理)